発信

これまで、全国から差し伸べられてきたたくさんの熱い支援。復旧・復興の歩みを進めるなか、 全国へ久慈の元気を発信する取り組みが始まっています。

まるごとさんまを手にPRをするアマリン

久慈から元気を発信

震災直後から全国の支援を受け、復旧・復興を進めている久慈市。2月14日、やませ土風館でこれまで応援してくれた全国の人たちに向けて久慈市の元気を発信する商品「まるごとさんま」が発表になりました。

同商品は久慈市漁業協同組合（皀健一郎組合長）とイトーヨーカ堂（鈴木敏文CEO）との連携により企画。両社は久慈市の復興支援と知名度アップを目指して開発に取り組んできました。

イトーヨーカ堂の早田義浩鮮魚部シニアマーチャンダイザーは「復興中の久慈市に協力したいと思い、事業を提案しました。水産物の消費は厳しい状況ですが、さんまの骨を取り、調理しやすく、食べやすい商品を販売することで消費拡大を図りたいと考えています」と意気込みを話しました。

商品のパッケージにはつりがね洞や久慈秋まつり、平庭闘牛大会の写真もプリントされ、久慈をしっかりPR。商品は2月15日から東北地方のイトーヨーカ堂の店舗を中心に販売されるほか、市漁協食品工場でも購入できます。

また、市漁協は昨年8月から三陸鉄道を支援するイオン㈱の商品の製造も担当。これからも手軽でおいしいサンマとともに久慈の元気が全国に発信されます。

表面にアマリンがプリントされた「まるごとさんま」

完全復旧した市漁協の食品工場

1／二子朝市が新施設で開催されました（5月3日）
2／三陸沿岸道路の用地幅杭の設置（7月26日）
3／震災後初となるケーソン設置（9月6日）
4／三陸鉄道北リアス線が野田ー田野畑間の運転を再開（4月1日）
5／連続テレビ小説「あまちゃん」のメインロケ地に久慈市が決定。4月1日(月)から総合テレビほかで放送開始予定（11月1日、ロケ取材会の写真）

被災者に生活の基盤を

震災を機に、新しい雇用の場を創出し、地元を元気づけようと立ち上がったコーキ㈱の岡本貴史さん。野田村出身の岡本さんは津波で自身の実家が被災しました。

震災後の復旧・復興の進み方にもどかしさを感じた岡本さんは、地元のために被災者の生活の基盤となる雇用の場を作ることを決意しました。昨年4月、コールセンター業務などを行う会社を設立。12月には小久慈町に事業所を設置し、5人を雇用しました。

「支援してくれた全国の皆さんに被災地から元気を発信したいです」と話す岡本さん。地元の高校などからも新卒者を雇用し、40人規模まで拡大を目指して事業を展開していく計画です。

コールセンター業務を行うコーキの社員

希望を見出せる生活の基盤地元に作りたい

コーキ株式会社
岡本　貴史 代表取締役

被災地の復旧・復興がなかなか進まない状況にもどかしい気持ちがありました。一時の支援だけで復興はなりえません。被災地の皆さんが希望を見出せるようにしたい、魅力的な職場や生活の基盤を自分の地元につくりたい。そんな思いから何か支援できるものがないだろうかと考え、会社を設立しました。これまで久慈市になかった新しい産業で地元雇用や事業拡大など、地域に密着しながら貢献していきたいです。

今後の飛躍に向けて、ぜひ「人づくり」に力を入れてほしいです。これから人と人のつながりは見直されてくると思います。人づくりは最強のまちづくり。次の世代につなぐことを考えられる人を増やし、コツコツ努力する久慈市の人柄を生かせれば、強い基盤になると思います。